

第一回、第二回ナショナルレジリエンス（防災・減災）懇談会で出された

「強靱化」に向けての基本方針についてのご意見

（整理： 懇談会座長・藤井聡）

強靱化には、以下の5つが必要である事が示された。

- ①短期的ではない「**長期的な視野**」
- ②個別的視点でない「**システムの視点**」
- ③過剰な市場原理の回避と「**適切な規制**」
- ④「**社会**（＝人の繋がり・コミュニティ）の**力**」
- ⑤「**自律・分散**」の上での「**協調・連携**」

これらはいずれも、日本の経済・社会システムや国土の

「**構造的な強靱化**」の必要性を示唆している。

1. 強靱化には、短期的でない「長期的な視野」が絶対に不可欠。

・尾崎委員：自分は財務省出身なので、単年度予算主義はわかっているが、レジリエンスについては、既存の枠組みにとらわれない新たな発想、**短期的利益にとらわれない長期的発想が必要**。単年度の高台移転の予算をけちって、災害後復旧・復興で巨額の財政赤字という事態にならないようにしなければいけない。

・小林委員：**百年の大計のような長期的視点**をもつことが大切であり、一気にゴールまで行くことが難しいのであれば、一步一步成熟度が上がっていくような段階的アプローチを考えることも考えられる。

・浅野委員：レジリエンスを考えるうえで、「フロー」よりも、「**ストック**」に**目を向ける**ことが大切。

2. 強靱化には、個別的視点でない「システムの視点」が不可欠

・森地委員：ハードとソフトは、始めから切り分けて考えるのではなく、全体の状態を想定し、**必要なシステムを把握したうえで、それに必要なハードとソフトを埋め込んでいく**手順となる。

・浅野委員：ある種のハザードに対して、ばらばらに考えるのではなく、**システムとして対応を考えない**といけない。そして、システム全体をとらえようとするとな

しいので、システムのうち失ってはいけない機能は何か、ということをもとに絞り出して、その機能を実現するためにはどのような制約条件があるか、今どのような準備ができていないか、ということを追いかけていくのではないかと考えています。

・小林委員：リスクマネジメントでは、**部分最適の積み上げが全体最適になるとは限らないので、全体を俯瞰**し、大雑把でもいいから方向性を示していくということが大切。

3. 強靱化には、過剰な市場原理の回避と「適切な規制」が不可欠

・松原委員：経済等の秩序は基本的にマーケットに任せるべきという考え方があるが、**マーケットは平時には高い効率性を有する一方で、危機の時には効率が落ちて脆弱**なものとなる。

・中林委員：個人の土地利用を**ある程度制限しないと、高台移転などの「国家100年の大計」は進まない**。

・金谷委員：**規制・制度改革の取り組みとの連携も重要**と考える。防災の視点において、もっと厳しく規制すべきところ、逆にもっと規制をゆるめるべきところも、多々ある。

4. 強靱化には、「社会（＝人の繋がり・コミュニティ）の力」が不可欠

・奥野委員：市場と行政が機能するためには、**ベースとして支える「社会」、すなわち「人のつながり」が要る**。

・中林委員：**レジリエンスの源**である「体力」つまり**地域の活力**をいかに維持増進するかが重要。

・中林委員：一方で、高台で新たなまちをつくるには**協働**が必要。

5. 強靱化には、「自律・分散」の上で「協調・連携」が得策

・山下委員：それぞれの社会インフラが、「自律性を高めて、一極集中せずに分散して、なおかつそれがネットワークで結ばれて協調していく」（**「自律」・「分散」・「協調」**）という視点と、**「統合運用する」**（分野別の統合、官民の統合、時間軸（過去・現在・未来）の統合）という視点が重要。

・中林委員：致命傷を負わないためには**分散が望ましい**。一方で、経済もインフラも相互依存しているので、しなやかな回復には**地域間連携が不可欠**。

以上